

令和4年度第1回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和4年10月14日(金) 13:30～14:45

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業調書について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書を用いて、事務局から新事業の概要と既存事業の実績及び今後の方向性について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

先に私から、「みんなでつくる地域公共交通プロジェクト」の実証運行について、利用者はどのような状況か。

事務局

月・金に濁川地区、火・木に駒ヶ岳・赤井川地区の運行で、今週火曜日から開始した。火曜日の午前中の利用者は13名であり、運行車両の10人乗りキャラバンに追加して予備の車両を出したが、午後の利用者は1名に留まった。木曜日は午前5名、午後からは1名となっており、本日は午前中に5名の利用者がいた。

遠藤委員長

最初は試しに利用するという方もいるが、今後も継続して利用してもらえるかが課題だと思う。また、今は無料とのことだが、有料となったときにどうなるか、現在の利用者への調査の方法等についても考えてもらいたい。

次に私はウニが好きなので気になったのだが、「水産資源安定化対策事業」にウニを駆除と記載があるが、食べられないのか。

事務局

こちらはコンブに悪影響を及ぼすこと、取っても身が無いことから駆除しているが、一部は別に蓄養を行っている。

遠藤委員長

ウニは一般的に高価な食材だと思うので、今後上手く水産の資源にできればいいと思う。

もう一点、「若年層の担い手育成による・定住人口創出支援事業」について、「誰でも簡単にもものづくり体験ができる場を提供」とあるが、経験のない学生でもできるのか。

事務局

本事業について、K P I のとおり地域おこしインターン及び地域おこし協力隊の受入を目指しており、現在は地域おこし協力隊を中心にリノベーションやものづくりの環境を整えている。進捗の内容も今後視野に入れながら、協力隊の使用に付随して体験ということで進めていく。

遠藤委員長

木材での体験というのは珍しいと思うので、誰でもできるということであれば観光資源として外部の人を呼び込むのに有効であると思うので考えていただきたい。

事務局

今後は原課で施設管理の体制を整え、観光のパッケージを構築できれば可能であると考えている。

佐藤委員

今の件だが、今日の新聞で尾白内のグラウンドでのイベントの記事を目にした。協力隊の任期が終了した山本さんであれば指導できると思うので、今後お願いして月に1回程度の体験が開けるのではないか。

事務局

開催のペースは確認が必要だが、木育マイスター道南支部の事務局長に就いていることから、そのような体験は可能なので今後展開していければと思う。

金澤委員

調書にもあるが、先日森小学校で天板の交換を行っていただいた。また、道南スギの特性上材が柔らかいということで、毎年メンテナンスを行ってもらうこととなった。今年7月には3・4年生が新しい天板をつけ、外したものは工場見学の際にかんながけをし、次の2学年に使うという、続けて使おうと考えている。小学校だけでなく、高校でも木育に関連するものということで幼稚園のためのおもちゃ作りをしているとのことで、体験を繋げていくのが重要だと感じた。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。今後もそういった繋がりも視野に入れて取り組んでいきたい。

岩島委員

大学連携について、青年会議所としても、個人的にも関わらせていただいたが、若い人たちと何かをするのは刺激になる。発表等でも同じ考えを持っていたり、新たな気付きが得ら

れたりの良い取組だと思うので、今後も続けていただきたい。

また、道南スギのブランド化について、他の観光地では様々な製作体験があるので、森町でもそれができればPRやブランド化に繋がると思う。町長にも参加いただいた「子育て応援プロジェクト」の「親子イスづくり」だが、子供たちは自分で作ったものを大事にしてくれる。参加者からは森町の木に触れ合う機会は重要との声もいただいたので、この取組は続けていきたいと思う。

事務局

大学連携については、青年会議所としてご協力いただきありがとうございます。今後も学生と様々な取組を行っていきたいので、力を貸していただければと思う。道南スギの取組についても今後も普及、発展を進めていきたい。

遠藤委員長

せっかく機材が揃っているのに、森町だけというのはもったいない。もう少し利用の枠を広げて有効活用ができれば、観光や就業等に繋がるかもしれない。また、岩島委員はUIJターンについて何かあるか。

岩島委員

現在の支援は東京圏だけに絞っているが、他の自治体でも様々な地域でできるような形があると思う。他にも医療や子育ての体制、施設を整えたり、働く環境が増えたりすると、UIJターンも増加するのではないかと思う。

宮崎委員

調書について、進捗等の記載が増えていて良いと思う一方で、新規就業者や移住者等の実績は0が多く、本来の目的である関係人口や移住者の増加として有効かどうかが見えてこない。例えば、「木造公共施設「森町モデル」」の事業についても、今後のまちづくりのビジョンを想像し発信していくことで、そこに商売が見出される。それが無いと人は来ないと思う。そこを見せていくことで民間や住民も協力的になるのではないか。また、事業はやって満足するのでは意味が無い。目的を見据えて真剣に進めていくべきである。

遠藤委員長

施設も作るだけでは昔の箱物行政となるので、ソフトも考えなければならない。

宮崎委員

何かしらの公共施設を建て替えるのであれば、そこにも仕事はあると思うし、それ以外にも長期に渡って施設を作るのであれば、10年後、20年後の仕事が見えてくる。それが人を呼ぶことにも繋がると思う。

また、「みんなでつくる地域公共交通プロジェクト」について、最終的には町からの補助金を無くし、実走するということか。参考までに、以前視察を行った北広島市では、乗車口にタブレットを設置し、近隣の飲食店の広告を載せ、広告料収入を加えて実走するという、マネタイズの方法を取っていた。

最後に「SDGs理解促進事業」についても、セミナー等をやっただけに思える。自治体による認証制度もあるので、制度設計をし、町内事業者の後押しをすることで、推進していけるのではと思う。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。公共交通については、現在実証運行ということで来年の3月まで無料で実施するが、試験的なものであるため、利用者がいなければ中止、ある程度利用者がいれば次は有償で運行していきたい。経費については行政から出し、運賃や国の補助金も活用しての運行を予定している。

また、本事業は総合戦略の4つの柱のうち、「安全・安心」のカテゴリに掲げている。他の自治体もそうだが、森町も高齢化や人口減少で公共交通は衰退している。その中で町として移動の足をどう守るかを考え、「安全・安心」なまちづくりをしようという目的の事業であり、令和3年度末に公共交通に係る計画が完成し、それを基に森町の公共交通をどうするかを謳っている中で、実行しているものである。バスやタクシー等の公共交通があるが、それ以外の部分を町として補いながら、町全体の交通網を形成し、「安全・安心」なまちづくりをしようということで掲出しており、交通空白地に実証運行を行いながら、本格運行に向けて事業を進めている。また、他の地区についても、ニーズを捉えながら、検討していく。

岡委員

ここ数年で林業が盛んになってきている。「モノ・ヒト・コト」Connect もりプロジェクト！」事業の実績について、製材会社に就職したのだと思うが、今後卒業生は様々な機器の取り扱いに係る免許を取得していくと聞いている。しかし、製材会社では活用できる場は無いので、北森カレッジでは現場に携わる職場への就職を増やすとのことである。他の市町村や森林組合では毎年数名雇っているが、十分な勉強をしているので作業も円滑に進む状況である。なので、今後この実績も減っていくのではと思うので、町内の事業体に話を少しでも多く森町で働いてもらえればと思う。後、木造についてだが、検査で道内でも上位の材と認められ、森林認証制度でも認証を受けた地元の木材を利用していただければと思う。

事務局

北森カレッジの就業は2件とも製材会社となっている。岡委員が心配している点だが、やはり川上対策から川下対策へ流れてしまう。しかしこれは悪いことではなく、森町には移住していることから事業としては成り立っている。ただし、就業者もKPI以上に増えれば良いと思うので、原課でニーズを捉えて、普及していきたい。また、木造公共施設についてだが、3ヶ年の事業であり先般協議会の中で報告会があり、道南杉だけでなく、他の材も良い材との評価を受けたとのことなので、その点もPRしながら進めていきたい。

川村委員

今回初めて委員として参加して事前に事業数の削減等について説明を受けたが、これで

も多いと感じた。私が知らない事業も多く、町民の方はさらに知らないと思う。町の活性化ももっと町民を巻き込まないと具体的なものは見えてこないと思う。宮崎委員からもあったが、就業も働く場所が無いと増えない。企業の声を拾い上げていかないと、それにあう事業も出てこない。まとまりづらくなるかもしれないが、他にも人を呼んで意見を聞かないと、見えてこないものもあると思う。

後2点、協定を締結した福島大学の生徒がインターンシップで森町に来たとのことだが、その様子を教えてほしいのと、森町の新幹線効果についても教えてほしい。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。福島大学の件だが、こちらに詳細な情報が来ていないので、詳細については後ほど確認させていただく。新幹線効果についてだが、利用客をこちらへ呼び込む方法を考えたが、数字として出せるものは無い。開業当時はブースを設置して呼び込みを行ったが、継続性が無かった。自治体として出来ることは決まっており、また、延伸等で厳しい状況が続くが、他の課との連携を強化して、成果が出せればと思う。

岡嶋町長

皆さまお疲れ様です。本日はオブザーバーとして参加したが、以前青年会議所時代にもこの会議に委員として参加して様々な話をしていた。当時わからなかったことも、町長になって各部局と話をしてこの会議が非常に大事とわかった。町民がやりたいと思う事業を原課ができる唯一の窓口だと思う。今日いただいた意見は私からも原課に伝え、具現化できるよう指示を出していく。町民が主体的になれるように、まちづくりの実感を持って携わってもらえるような仕組みを作りだせる素晴らしい会議だと思うので、できれば毎回参加して、いただいた声を原課に届けたい。皆様のご協力とご支援をいただきながら進めていきたいと思うので、引き続きよろしくお願いいたします。

② 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

新旧対照表及び総合戦略改定案について説明。

③今後のスケジュールについて

令和4年度第2回の開催について、開催時期は令和5年3月を予定。

4. その他

5. 閉会